

令和7年度 家事シェア推進キャンペーンの結果について

1. キャンペーン概要

【内容】

各家庭における家事・育児の状況を可視化するとともに、家事シェアの必要性を認識してもらうため、愛媛県民を対象とした Web アンケート調査を実施。

(回答者には、抽選で家事シェアに役立つグッズをプレゼント。)

【実施状況】

(第1弾) 令和7年7月1日～9月30日 480人

(第2弾) 令和7年10月1日～12月30日 581人

計 1,061人 (内訳：男性273人、女性783人、無回答5人)

2. 家事・育児のシェア状況アンケート結果

【概要】

○家事・育児の分担状況に関する Web アンケート調査 (「料理」、「洗濯」、「掃除」、「育児」、「その他」全34問)

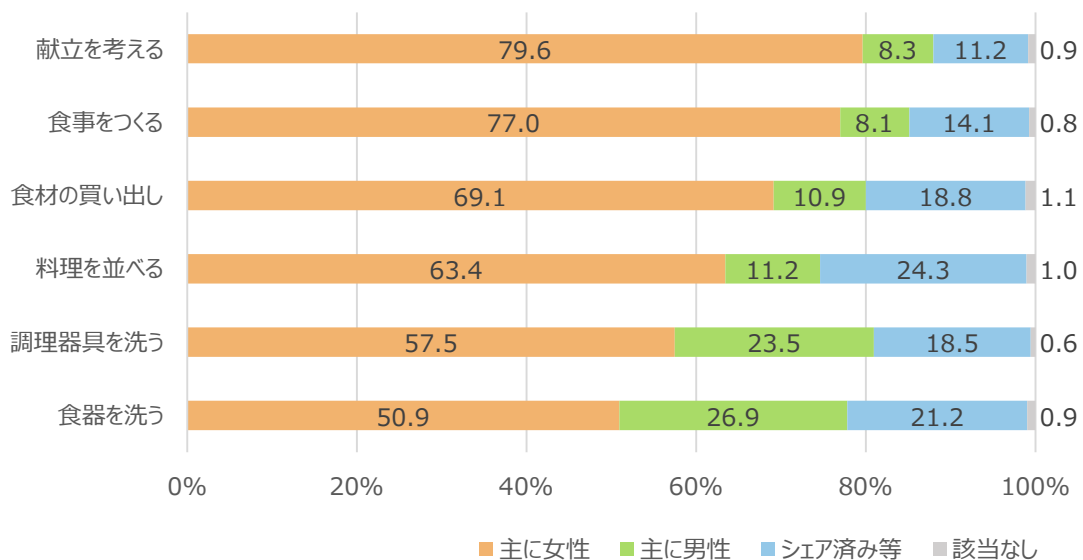
- ・家庭内での家事・育児は、ほとんどが女性に偏っている。
- ・女性より男性が担当している割合が高いものは、「車の整備 (洗車・給油等) をする」、「ゴミの分別・ゴミ出しをする」、「粗大ゴミを出す」の3項目。

Q1 家事・育児のシェア状況

【料理】

- ・「献立を考える」、「食事をつくる」は、約8割が女性が主に担当していると回答。
- ・最も割合が低い「食器を洗う」でも、主に女性が50.9%と過半数を占めている。

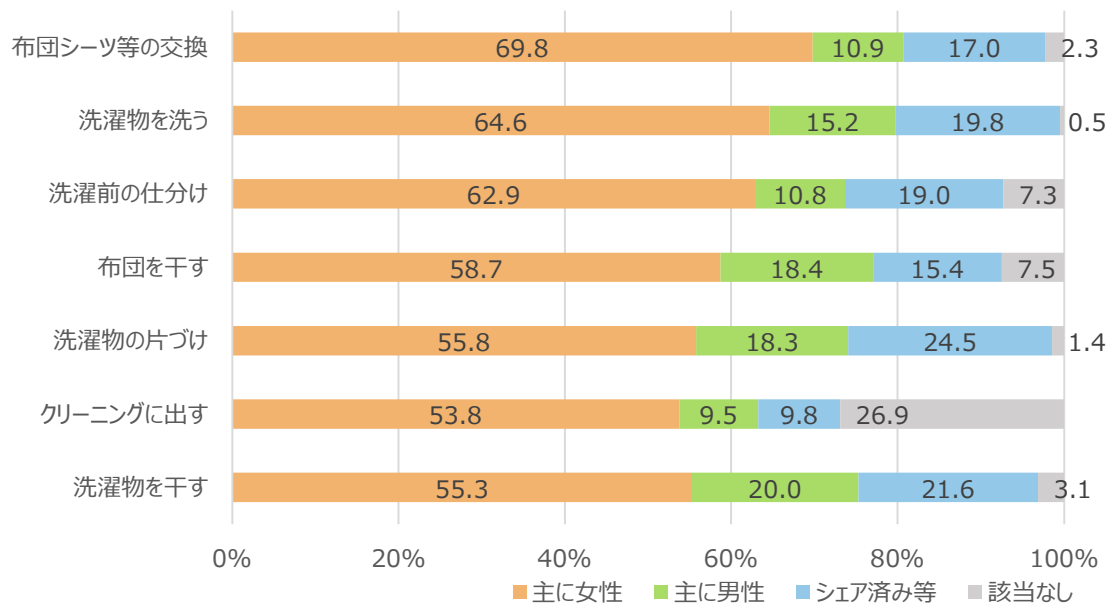
料理



【洗濯】

- 全ての項目で、女性が主に担当する割合が高い。
- 男性が最も担当する割合が高いのは「洗濯物を干す」で 20.0%。

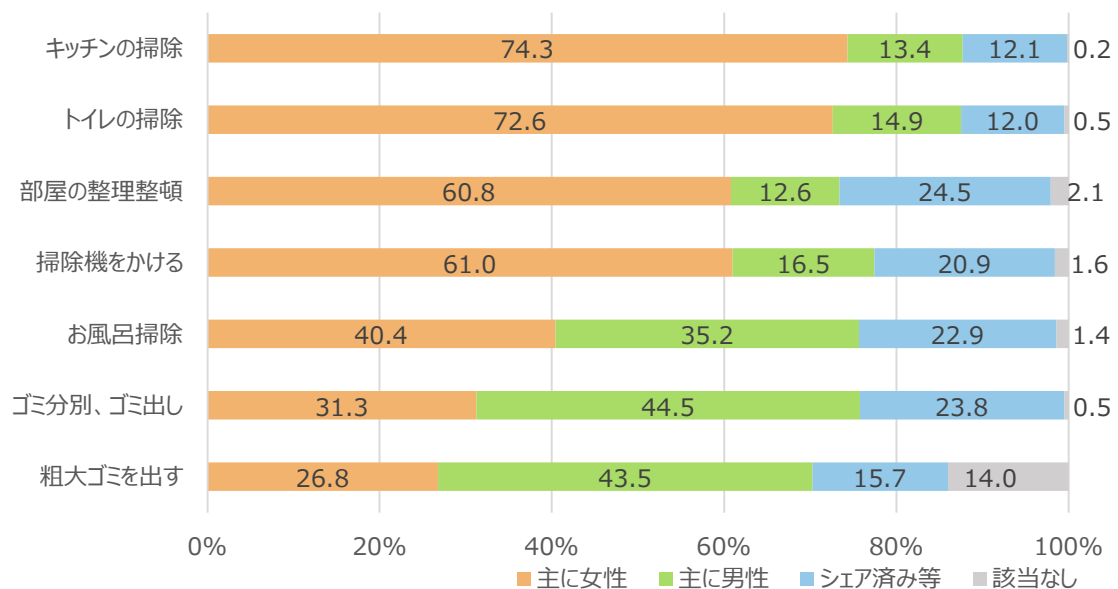
洗濯



【掃除】

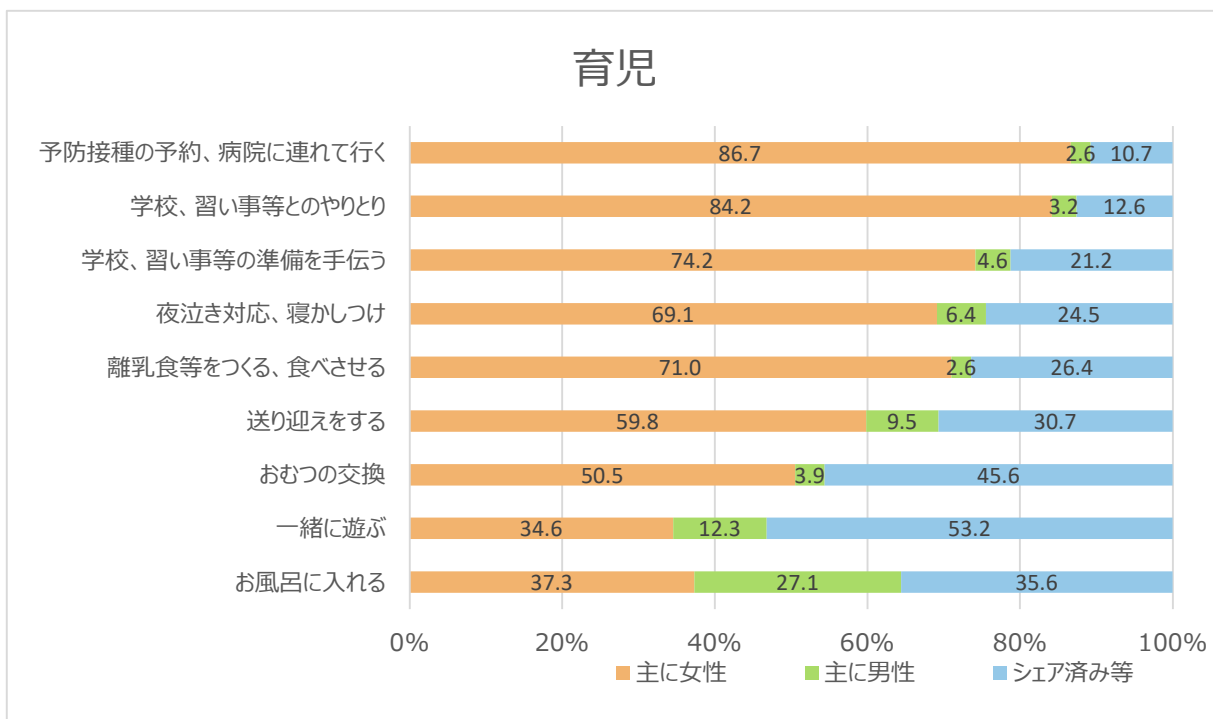
- キッチンの掃除やトイレ掃除といった項目で、女性の負担が顕著（70%超）。
- 「ゴミ分別、ゴミ出し」、「粗大ゴミを出す」は、他の項目と比較して男性が関わる割合やシェアの割合が高い。

掃除



【育児】

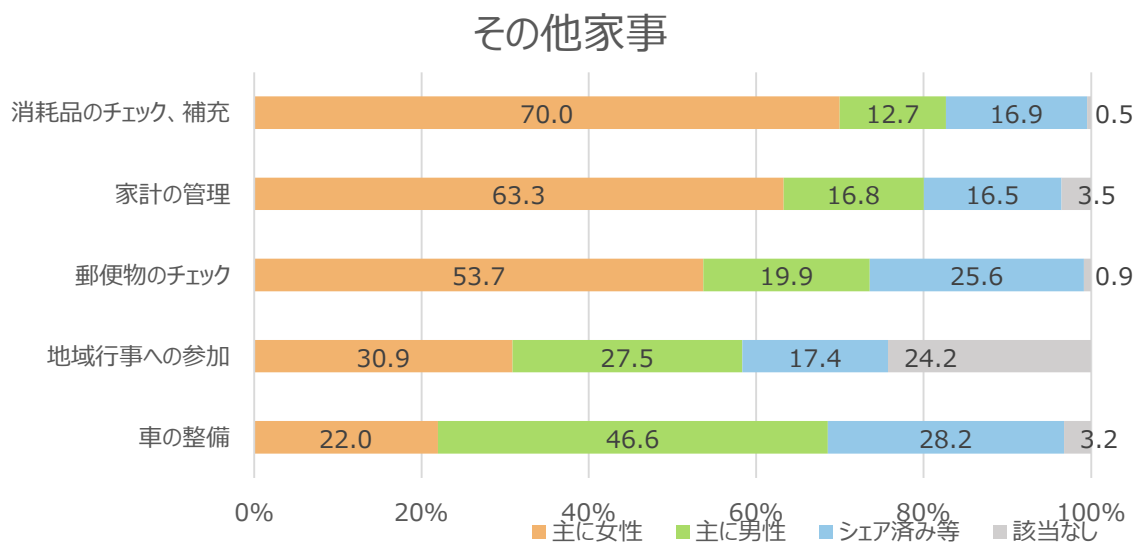
- ・「予防接種の予約、病院に連れて行く」や「学校、習い事等とのやりとり」等、状況に応じた連絡・調整を要する項目は、女性が主に担当する割合が高い。



(注) 【育児】9項目については、「該当なし」を除き、「主に女性」「主に男性」「シェア済み等」の回答のみでグラフを作成。

【その他の家事】

- ・「消耗品のチェック、補充」や「家計の管理」など、日常の細やかな気づきや家庭運営に関わる計画的・継続的な家事が女性に偏る傾向が見られた。
- ・一方、「車の整備」（主に男性 46.6%、シェア済み等 28.2%）や「地域行事への参加」（主に男性 27.5%）は、他の家事項目と比較して男性が関わる割合が高い傾向にあった。

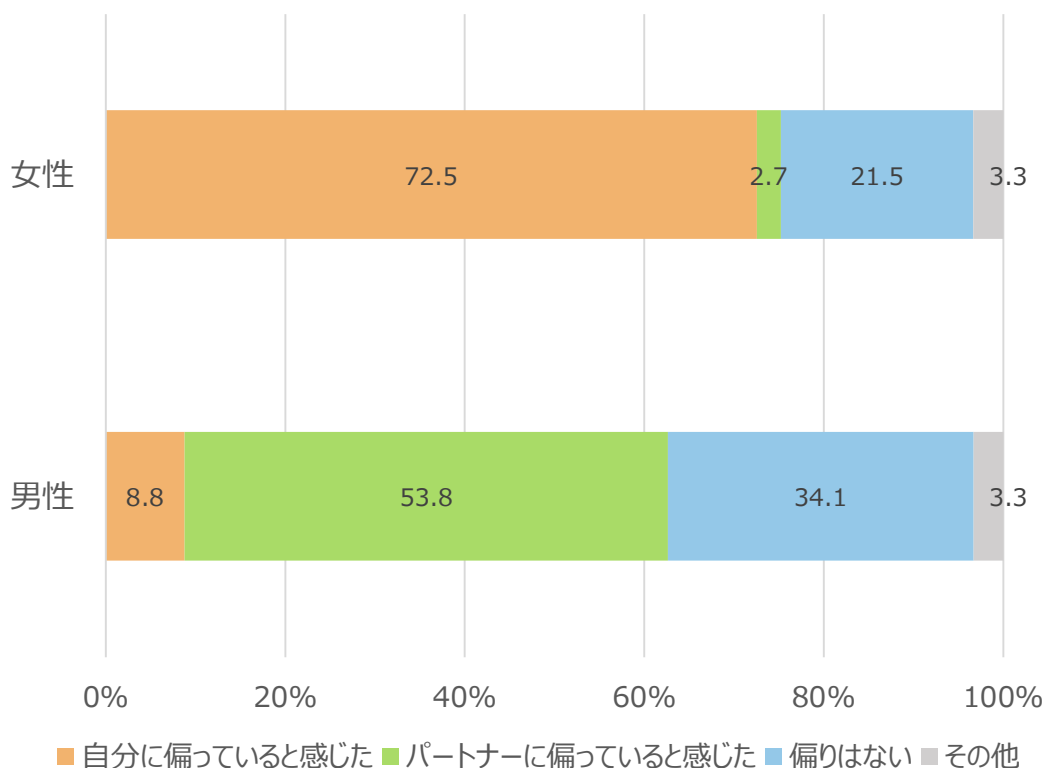


(注)

- ・「主に女性」の数値は、女性が「主に自分が担当している」、男性が「主にパートナーが担当している」と回答した割合。「主に男性」の数値は、男性が「主に自分が担当している」、女性が「主にパートナーが担当している」と回答した割合。（性別の設定で「無回答」と回答した人を除く）
- ・凡例の「シェア済み、外注等」とは、「既にシェア済み、外注や同居家族が担当している」を省略したもの。

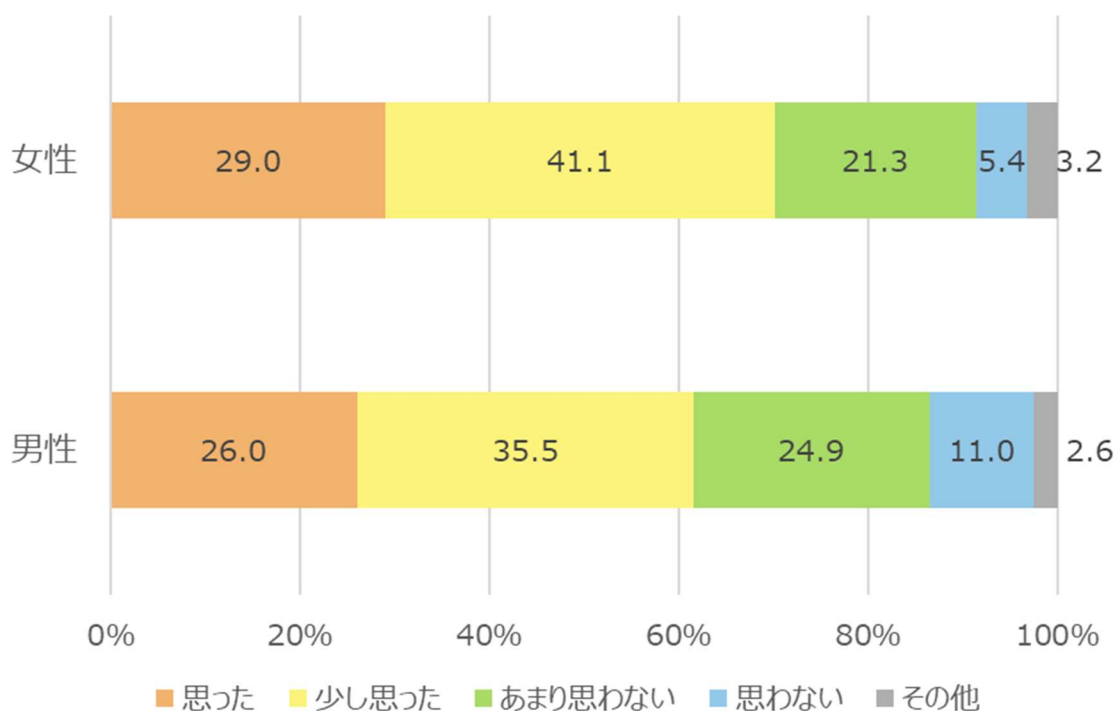
Q2 : Q1 を回答してみて、家事・育児分担に偏りを感じましたか？

- ・女性の 72.5%が「自分に偏っていると感じた」と回答。
- ・一方、男性も 53.8%が「パートナーに偏っていると感じた」と回答しており、家事・育児分担の偏りを認識。



Q3 : Q1 を回答してみて、家事・育児分担を見直してみようと思いましたか？

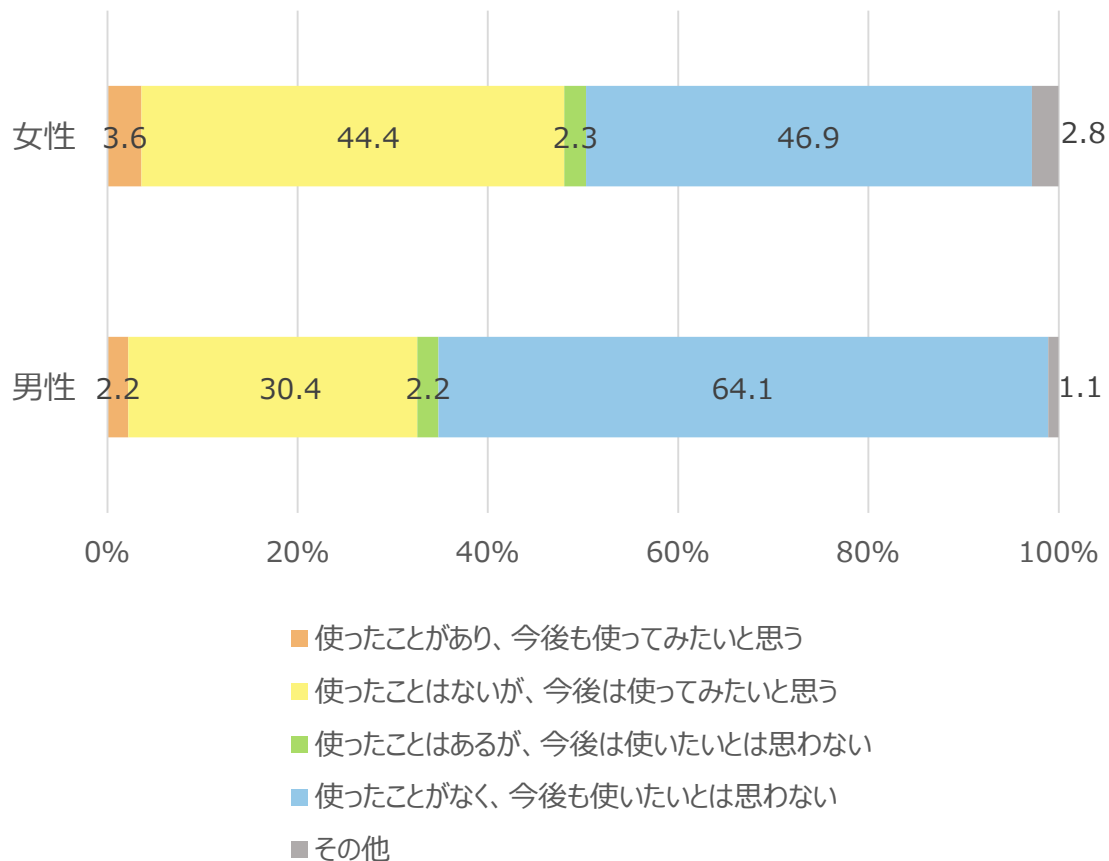
- ・男女ともに約 3 割が家事・育児分担の見直しに意欲。さらに、「少し思った」を含めると、女性 70.1%、男性 61.5%が分担見直しへの潜在的な意欲を持っている。



Q4：家事代行サービスを使ってみたいと思いますか？

県では、仕事と家庭の両立にむけて、家事シェアはもちろん、家事代行サービスの活用の活用も呼びかけている。

女性の44.4%、男性の30.4%が「使ったことがないが、今後は使ってみたいと思う」と回答。一方、「使ったことがなく、今後も使いたいとは思わない」が男女ともに約半数を占めている。



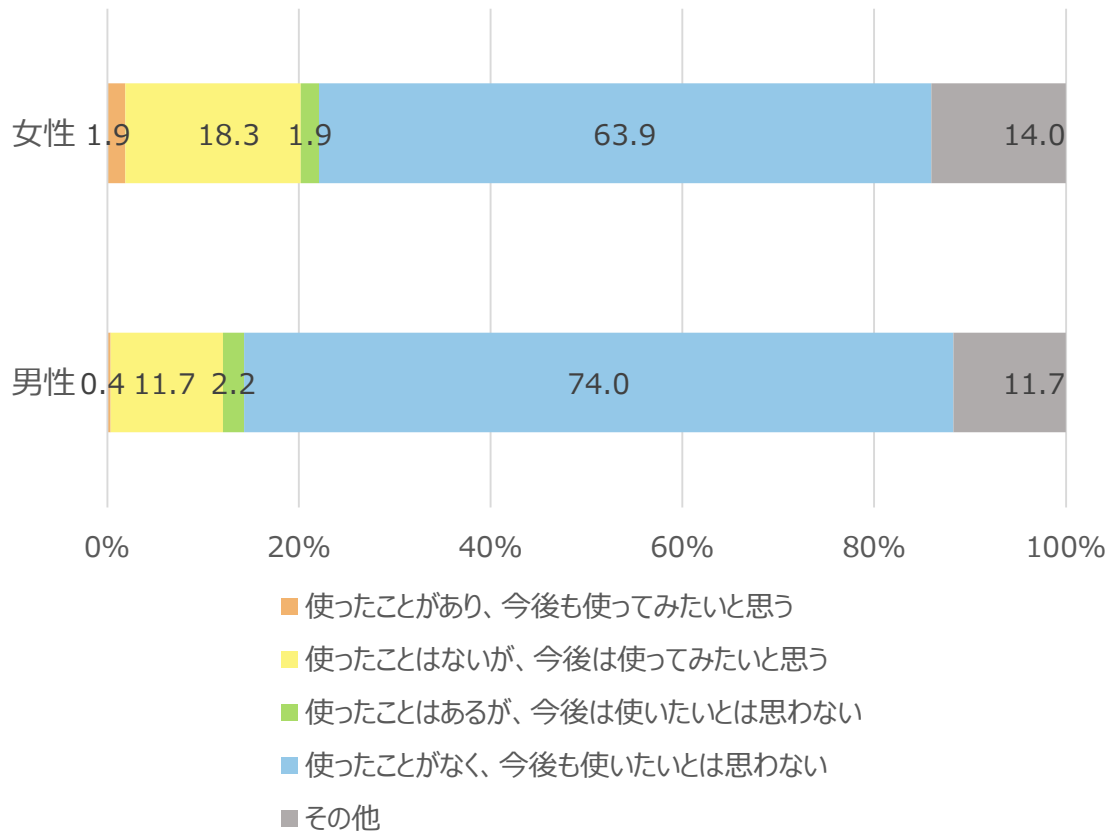
✿ 各家庭の状況にも違いがあるものの、サービス利用前には「料金やサービスの内容が分からない」、「業者を頼るといことに抵抗がある」といった疑問を持つ方も多いようです。ぜひ一度「家事代行サービス啓発ブック」をチェックして、家族みんなで家事・育児を考えて「スクラム家事・育児」に取り組んでみてください。

■ 家事代行サービス啓発ブック「家事を休もう！」(ebook)

https://ehime-scrumproject.jp/wp-content/themes/scrum-renewal/ebook/housekeeping_book/index_h5.html#1

Q5：ベビーシッターサービスを使ってみたいと思いますか？

・女性の18.3%、男性の11.7%が「使ったことはないが、今後は使ってみたいと思う」と回答しており、家事代行サービスよりも関心が低い傾向。



Q6：休日（1日当たり）の平均的な家事・育児時間はどれくらいですか？

女性平均 約 5 時間 43 分

男性平均 約 3 時間 29 分

(注) 「〇時間以上」、「ずっと」等、時間が不明確である回答を除く。

Q7：「家事シェア」への意気込みをお願いします！

<家事シェアへの意気込み>

男性からは、「子どもの成長に伴い、家事・育児に対する負担感も変わってくると思いますが、夫婦で頻りにコミュニケーションを取りながら、自分たちの1番良い形での「家事シェア」を柔軟に維持・継続していきたいと思います。(30代・男性)」といったコミュニケーションの重要性や柔軟な対応を求める声や、「仕事において業務の属人化は不測の事態が発生した際に重篤な影響を及ぼす。人生において最も重要な、最小単位の家族という共同体においても業務（家事）の偏りはリスクでしかない。夫婦どちらかが欠けたとしても一人で家庭を回せるようにマメな情報共有、意識の統一が

必要である。(40代・男性)」という、家事を家族経営のリスクマネジメントとして捉える視点での意見があった。

また、「気がついたらパートナーにいちいち言わず、自分から率先して家事（特に部屋の掃除など）を行いたい。(50代・男性)」という、具体的な行動への意欲も示す意見もあった。

女性からは、20代・30代を中心に、結婚や出産を機にパートナーと家事シェアについて話し合った経験や、夫婦間での協力の必要性を強く訴える声が多く寄せられた。「子どもを授かる前に夫とは『私1人で家事も育児も絶対に絶対にできないから、一緒にやってくれないなら子どもは考えられない。“手伝い”じゃなく“一緒に”楽しいことも悲しいことも共有したいから。』という話しをしました。(30代・女性)」という意見は、家事シェアが夫婦関係の基盤であることを示唆している。

一方で、家事シェアがなかなか進まない現状に対する諦めや疲弊感も率直に語られており、「もう諦めてます。(30代・女性)」や「家事を頼んでも嫌がられるなら頼みたくない。自分でやる方が気が楽でいい。(60歳以上・女性)」といった声は、根深い課題を示している。

<労働時間に伴う家事負担の偏り>

男女問わず、職場の理解不足や長時間労働が家事シェアの大きな障壁になっているという意見が多く見られた。「職場の管理職の中には、男性が家事・育児をして何になるという意識が強く、長時間労働を強いられることが多い。転職等も検討して、ワークライフハーモニーを向上させていきたい。(20代・男性)」や「夫は激務なので、分担は難しい。会社のやり方を変えないと、上手く分担するのは中々できないと思う(20代・女性)」という声は、企業側の意識改革や働き方改革の必要性を強く訴えかけている。

<家事シェアへの想い>

「アンケートに答えながら涙が出ました。こんなに偏っていたんだな。私頑張っていたんだな。家事も育児も夫婦で。家族の幸せのために変化を求めます。(30代・女性)」という、現状への強い問題意識と変化への期待が込められた声があったほか、「子供の世代にシェアが当たり前だという感覚を育てたい(30代・性別無回答)」や、「令和時代は男性の家事分担無しでは成り立たないと思います。頑張れ、男子(60歳以上・女性)」といった、次世代への家事シェアの浸透と男性の意識変革への強い期待が寄せられた。